

令和2年3月4日

松本市議会会派「開明」行政視察報告書

- 1 視察実施日 令和元年7月16日（火）
- 2 視察箇所 滋賀県大津市
- 3 テーマ 「商店街振興・活性化に向けた取り組みについて」
- 4 所 感

大津市商店街の現状と問題点として挙げられている、①店主の高齢化、②後継者不足、③郊外型大型商業施設の出店、④インターネット販売の拡大、については本市としても同じ状況である。

また、商店街に求められる役割として、①地域住民の身近な買い物の場、②コミュニティースペース、③地域全体の公共的役割、④地域の活性化のための機能、についても概ね合致するものである。

現在大津市では市内商店街店舗数が年々減少しているが、大津市の特徴を反映しているともいえる。大津市には25の商店街があるが、多数のJRと京阪の駅に分散している。また、大津市は勤め先との関係から昼夜間人口比率が92.1と夜の人口が多く、小売店には不利な状況がある。また、少し離れればイオンモール、イオンスタイル、ほか大型店が6件あることも商店街活性化には不利な条件と言える。

そうした中で、行政として例えば「空き店舗活用補助金」などを設けてはみたものの、効果的な施策とならなかった経緯がある。そうした反省を踏まえて、新たな支援制度も始まってはいるが、引き続き課題も多いと感じた。

例えば、「商業地魅力アップ支援事業補助金」は、商店街活性化計画策定支援、ということで事業費の2分の1、限度額50万円を補助する施策である。これは商店街自らが計画をつくり、つくれば補助がもらえるというもの。しかし、自らがつくることの意義はあるとしても、それが功を奏するかどうかのマーケティングなりは果たして実施されているのだろうか。つまり、専門家を入れた検討がなされなければ、それはただの計画「絵に描いた餅」に過ぎないということもできる。ほかにも企業・創業者に対する店舗改装費補助、商店街が行う催事等に対する補助も、従来から行われていることにお金をつぎ込んでいくような感覚である。こうした取り組みは、未来に対しての投資というより

は、現状をできるだけ維持していくという、守りの投資という感が強い。やはり、コンサルなり、マーケティングなり専門家を招請してのアドバイスが必要ではないかと感じた。

パルコについてはすでに撤退した後で、参考となることはなかったが、こうした昼夜間人口比率の地にパルコがあったことが不思議と言える。また、大津琵琶湖競輪場跡地を大型商業施設と公園に整備して活用していくことが決まっているが、商店街にとってはさらに厳しいものになることが想定される。

大津市の取り組みは、商店街活性化という点ではややちぐはぐな感じを受けた。これを踏まえて本市の中心商店街活性化に向けては、「商業ビジョン」に沿い、プラス何ができるのかを検討していく必要がある。

以 上